

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 港区
学 校 名 八幡屋小学校
学校長名 井原 高志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・八幡屋小学校では、第6学年 25名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和6年度「全国学力・学習状況調査」では令和5年度の結果と比べて、国語・算数とともに全国・大阪市の平均正答率との差が小さくなかった。また、平均無答率は全国・大阪市に比べて低く、すんで回答していることがわかる。

【国語】

学習指導領域の内容では「読むこと」で全国・大阪市の平均正答率を上回った。他の領域でも全国・大阪市と差は小さくなかった。

【算数】

学習指導領域の内容では「数と計算」で大阪市の平均正答率とほとんど差はなかった。他の領域でも全国・大阪市と差は小さくなかった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】令和5年度の結果と比較すると、全国・大阪市の平均正答率との差は小さくなかった。また、平均無答率も向上している。領域では「読むこと」で24.5ポイントとかなり向上した。学校全体で取り組んでいる読み取る力の育成の効果がみられた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」では大阪市の平均正答率との差が小さくなかった。ペアトークやグループ学習など話し合い活動の積み重ねが効果として表れている。

【算数】令和5年度の結果と比較すると、全国・大阪市の平均正答率との差は縮まった。また、平均無答率も向上している。領域では「変化と関係」で全国・大阪市との差が小さかった。「数と計算」「図形」「データの活用」でも全国・大阪市の平均正答率との差は小さくなかった。「学力向上支援チーム事業」で算数を中心に研究・授業改善・個別指導をすすめたりしたこと、少人数指導で個々が考えて解答を導く機会を大切してきたことの効果が見られた。

質問調査より

児童質問紙「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目において肯定的な回答をする児童の割合は大阪市・全国の値より高くなっている。日々の教育活動において、児童の思いを大切にし、一人ひとりが自己実現できるような取り組みを推進した成果が見られる。それは、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目や「学校に行くのは楽しい」の項目での最も肯定的答する児童の割合からもうかがえる。また、「学力向上支援チーム事業」や少人数指導によって、より分かりやすい授業を目指すとともに、自分の考えをもって主体的に学びをすすめる活動の推進の成果でもあると考える。

今後の取組(アクションプラン)

学力については、「全国学力・学習状況調査」の結果から成果がみえてきた算数科を中心には力向上を目指す。研究教科に算数科を位置づけ、全学年で授業研究に取り組む。今年度も「基礎・基本の定着」に重点を入れて取り組んでいる。さらに「学びに向かう力」を高める指導法について進める。研究の推進については「学力向上支援チーム事業」からスクールサポーターを講師に招き、研究授業の指導、若手教育の育成に尽力いただいている。各学年での取り組みは他学年の指導にもいかすようにしている。学校全体の取り組みとしては、3年以上すべての算数科の授業での少人数指導の実施、学力の定着を目指した放課後学習の実施、文章問題の読解力を高めるために全学年で読解力ワークブックの実施、児童が主体的に文章問題にチャレンジする「ひらめきアタック」の実施など、個々の児童の課題を解決するような取り組みを日々重ねていく。